

## 介護における家計と施設利用について

上 条 節 子  
Setsuko KAMIJHO

三 石 千代子  
Chiyoko MITSUISHI

六波羅 美 代  
Miyoko ROKUHARA

### 1. はじめに

急速な高齢化の進展のなかで後期高齢者の増加は、今後介護を要する高齢者が急速に増加することが予想される。要介護高齢者の数は1993年には、寝たきり高齢者90万人、介護を必要とする痴呆性高齢者10万人程度であるが、2000年には寝たきり高齢者120万人、痴呆性高齢者20万人、2010年には寝たきり高齢者170万人、痴呆性高齢者30万人になると予測されている。(厚生白書平成7年版)

「介護と家計」の一連の研究の一環として、今回は施設利用と家計の状況を実態調査をもとに究明することとした。

高齢社会の中で、要介護者が必然的に増加すると予測される現在、在宅介護のみを介護の本道とすることは、種々の困難を伴うことが前研究においても、実態として捉えられるところであつた。

介護者が身心の健康を保ちつつ、日常生活をある程度普通に遂行しながら介護を続けることができれば、介護者にとつても被介護者にとつても、人生を明るく全うすることができるといえよう。その為には介護者が、家庭において介護の全部を一人(又は二人)で背負うのではなく、一部を他の手にゆだねることが必要である。施設利用はその一つといえよう。

施設を利用した場合の介護者の経済状況、介護者の身心の健康、被介護者にとってのメリットなどを究明し、それを通して今後の施設利用のあり方、行政、施策への要望の示唆ともなることを目的として本報告を行なうこととする。

### 2. 目的および調査方法と対象施設について

急速な高齢社会、特に後期老年人口の伸びが著しいことを考えあわせると、介護を要する高齢者が急速に増大していくことが予想される。今までは在宅介護を希望する高齢者も多く、家族は介護の必要性が生じると、多くの場合は働いていた嫁、あるいは妻、あるいは娘はや

めて、介護に当たらざるを得ないのが現状であった。

昨年と一昨年の在宅介護と家計との関係の調査研究より、その経済的減収や介護者の精神的、身体的疲労、それによりおこる健康障害や家族のゆとりの減少等を見たとき、それはあまりにも大きな家庭の負担となるのではないだろうかと感じた。

そして現在の家族はと見ると、高齢者の夫婦のみの世帯の増加、老親と既婚子の世帯分離、女性の社会参加の増加、高齢者の単独世帯の増加、介護をめぐる社会規範の変化等、さまざまな面で大きな変化をしており、今までのような家族介護にゆだねる形態はとりにくくなるのではないかと考えられる。

高齢者率は松本市16.1%、東筑摩郡22.3%、南安曇郡18.8%、諏訪郡20.6%、長野県全体は18.9%（平成7年10月1日現在、長野県民手帳平成9年版）である。

そこで施設介護をとり入れた場合、その経済的負担は家計にどのように影響してくるのだろうか。とり入れたことによるプラス面にはどのようなことがあるだろうか。

家計と施設介護とのかかわりにおいて、問題点を明らかにすることを目的とした。

調査方法は、施設利用者にアンケート用紙を配布し、郵送により回収した。回収率は50%であつた。対象者は松本市の老人保健施設利用者である。施設利用者は松本市を中心に、東筑摩郡、南安曇郡、諏訪郡、その他長野県全域に及んでいる。

### 3. 施設利用者の被介護者の状況

(1)今回の調査における被介護者は、女性33人(64.7%)男性18人(35.3%)、計51名である。

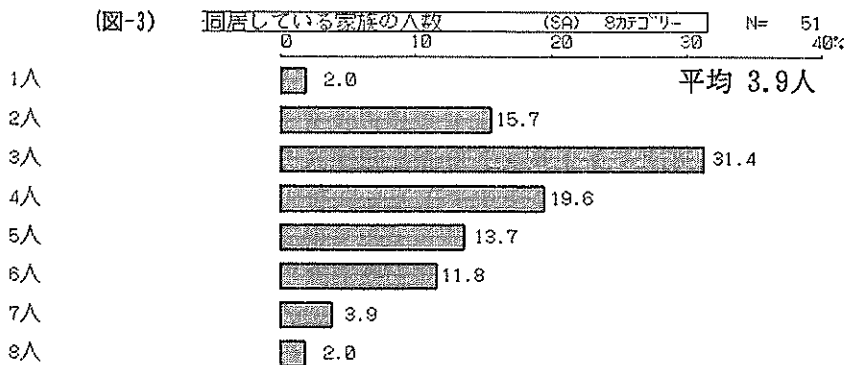
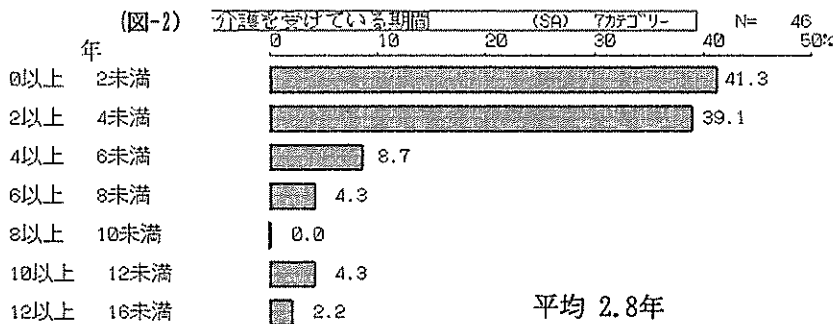
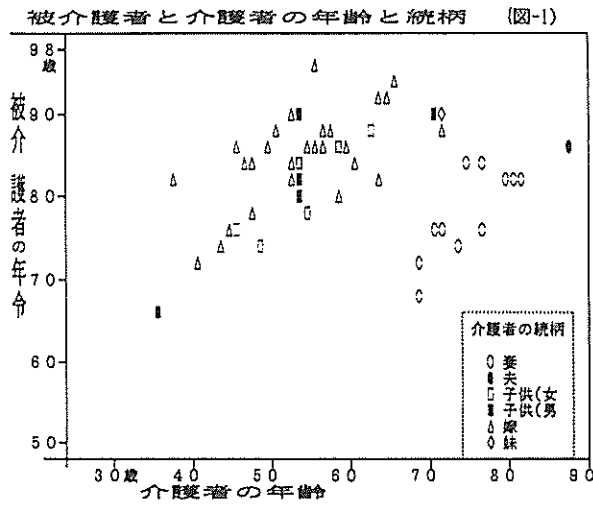
年齢は老人保健施設であるために、66歳から96歳までおり、平均82.7歳という高齢であつた。

(2)被介護者と介護者の年齢の分布は(図-1)に示す通りで、被介護者が配偶者の場合は被介護者の年齢が高くなるにつれて介護者の年齢も高齢になっている。嫁、子供の場合には介護者に比し被介護者の年齢が高い。二つのグループにはつきり分かれていることがわかる。

(3)被介護の期間は4年未満が80%で、平均2.8年であつた。1995年在宅介護調査では平均4.2年であつたが、この場合施設介護の方が短い結果であつた。(図-2)

(4)一世帯当たりの人数は平均3.9人で、長野県の平均3.04人（平成7年10月1日現在、長野県民手帳平成9年版）より多い。(図-3)1995年在宅介護調査では平均4.4人であつた。その比較は、(表-1)に示す通り2人3人家族の増加と5人家族の減少である。これは一般の家族の変化として一世帯当たり人員の減少、世帯規模の縮小、世帯の小規模化と一致している。

在宅介護は家族人員が多いほど介護しやすい結果が出ていたが、家族員数が減りつつある現在、今回の調査家庭に於いても、3人以下の家族が50%である場合、やはり施設介護を利用する等の方策を考えなければならないと考えられる。

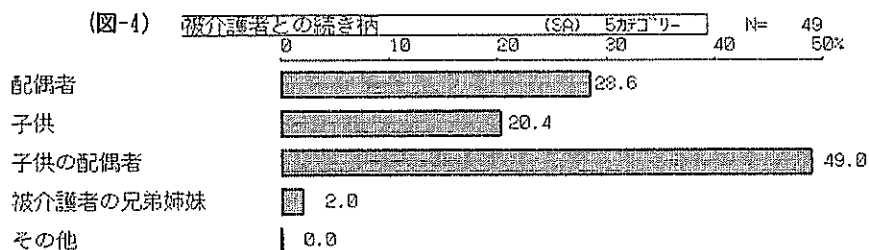


家族人数について  
1995年在宅介護と1997施設介護と比較 (表-1)

家族人数	調査年 人数	1995年 109人	1997年 50人
	平均人数	4.4人	3.9人
2人		11.9%	17.7%
3人		17.4%	31.4%
4人		19.3%	19.8%
5人		26.6%	13.7%
6人		14.7%	11.8%
7人		6.4%	3.9%
8人		0.9%	2.0%

(5)主な介護者の続き柄は、子供の配偶者49.0%、配偶者28.6%、子供20.4%で、子供の配偶者が圧倒的に多い。1995在宅介護調査と比較すると、配偶者の割合が増加している。

これから高齢者夫婦のみの世帯の増加していくとき、ますます介護者に配偶者の割合は増加していくことが考えられる。高齢者が高齢者の介護するときの問題点、あるいはそれを可能にする方策等も十分考慮していかななくてはならないであろう。(図-4)(表-2)



介護者の続柄  
1995年在宅介護と1997施設介護と比較 (表-2)

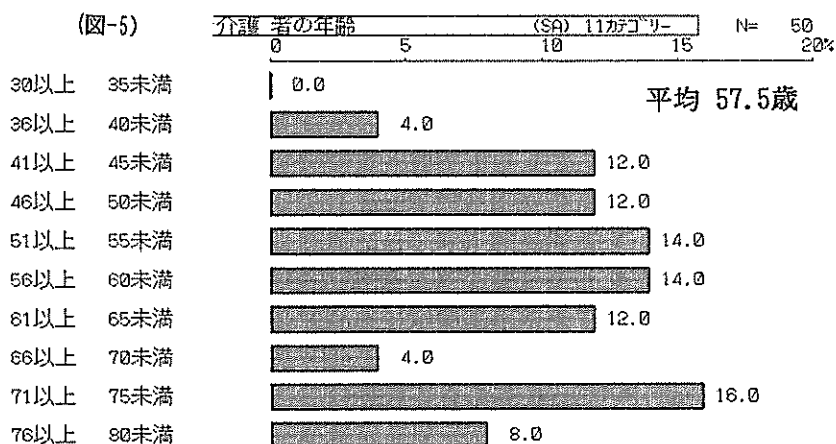
続柄	調査年 人数	1995年 109人	1997年 50人
配偶者		23.1%	28.6%
子供		23.1%	20.4%
子供の配偶者		51.9%	49.0%
その他		1.9%	2.0%

## 4. 介護者の状況

(1)介護者の性別は女性88.2%、男性11.8%で、1995在宅介護調査の場合、男性の介護者が3.7%であつたのに比較すると男性の介護者が増えている。高齢夫婦のみの世帯の場合、妻が要介護者になったとき、夫が介護せざるをえないであろう。調査のなかで87歳の夫が85歳の妻の介護をしている人がいた。

被介護者の年齢には二つの山があり、51歳から60歳と、70歳以上である。平均57.5歳であつた。1995年の調査の平均年齢は54.0歳と比較すると、今回の調査では72歳以上の人が24%もあり、1995年の調査の5.7%を大きく上回っている。

「老老介護」ということばが生まれた通り、介護者の平均年齢も確実に高齢化している。この高齢介護者に介護が可能のように、今後介護の方法を考慮していかなければならない点の一つであろう。(図-5)(表-3)

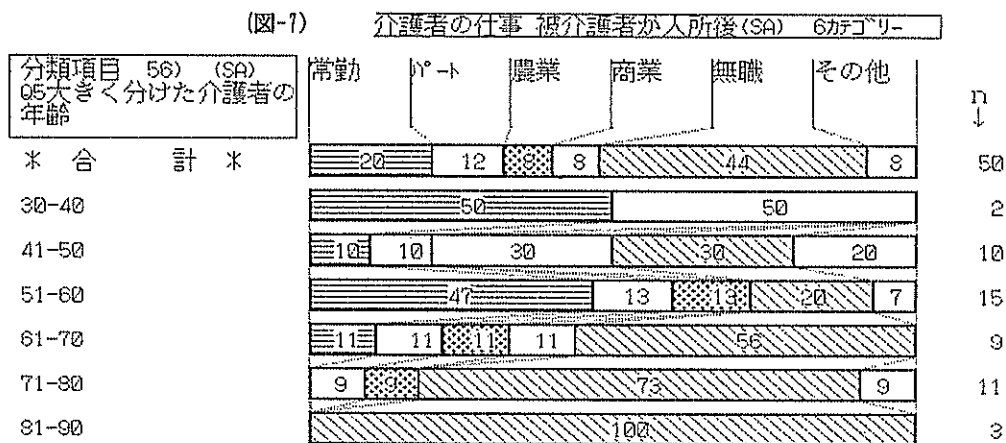
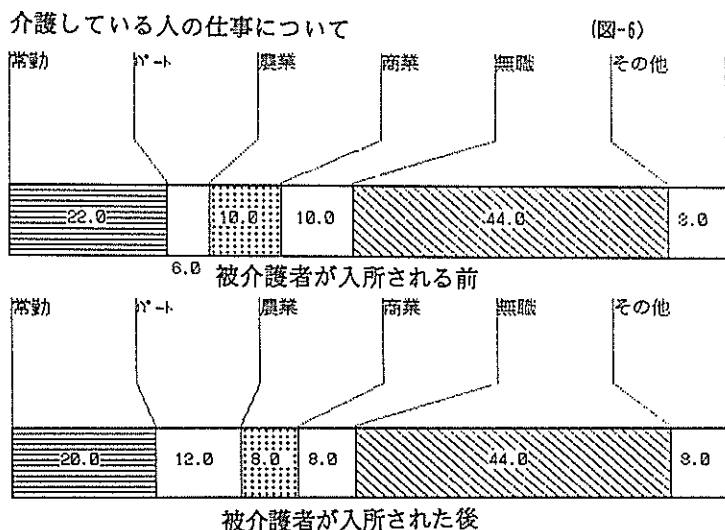


## 介護者の年齢

1995年在宅介護と1997施設介護と比較 (表-3)

介護者の年齢	調査年 人数	1995年 109人	1997年 50人
	平均年齢	54.0歳	57.5歳
35歳未満		2.7%	0%
36以上 41未満		7.3	4.0
41以上 47未満		13.8	10.0
47以上 54未満		24.7	20.0
54以上 60未満		22.0	22.0
60以上 66未満		11.0	12.0
66以上 72未満		9.2	6.0
72以上 78未満		3.7	18.0
78以上 84未満		2.0	6.0
84以上 90未満		1.0	2.0

(2)介護者の仕事についてみると、被介護者が入所前と後を比べると、パート労働の割合が増加している。しかし全体では無職の割合が最も多い。これを介護者の年齢との関連でみると、61歳以上の介護者に無職の人が大変多く、特に70歳以上の80%以上が無職である。高齢ゆえに介護だけで精一杯精であろう。60歳以下の人に常勤、パート、農業、商業と仕事についている人が多い。働ける年齢においては、施設介護を上手に利用することにより、仕事の継続を可能にしていると考えられる。(図-6.7)



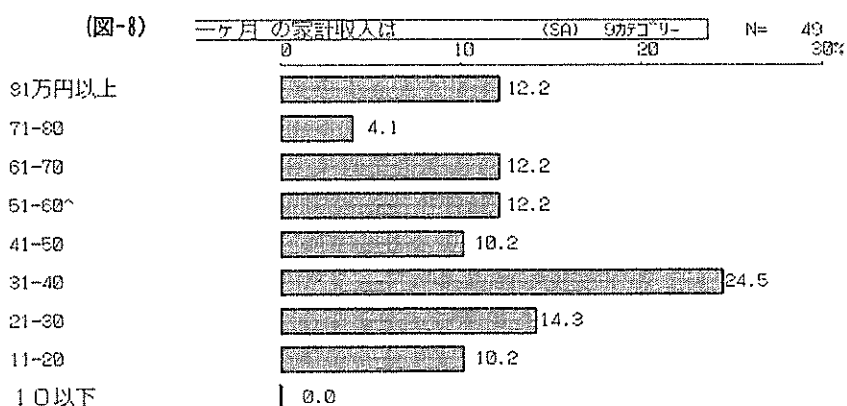
## 5. 施設介護と家庭経済

(1)調査家庭の一ヵ月の家計収入は、31-40万円が最も多く、次いで21-30万円となっている。しかし収入は81万円以上から、20万円以下とその差がかなりあることを示している。(図-8)

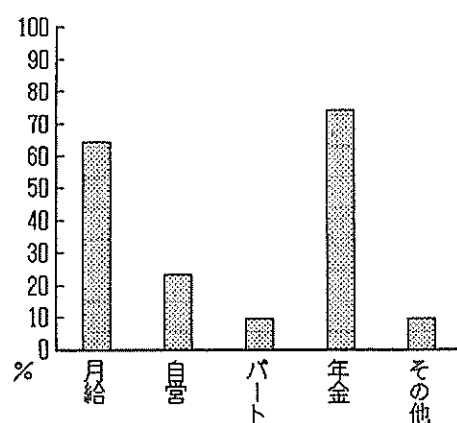
(2)収入の種類は複数回答であるか、年金収入のある人が最も多く74.5%であり、月給、64.7%、自営業の収入は23.9%であった。(図-9)

(3)一ヵ月の年金収入をみると0-5万円の人が38.8%で最も多い。しかし16万円以上も26.5%いる。収入の格差も年金の格差も大きい。

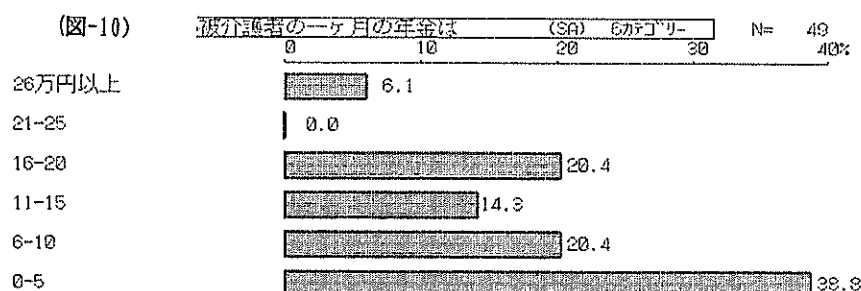
これを一ヵ月の家計収入との関連で見ると、51万円以上の家計収入の場合に、26万円以上の年金がある人がいるのみである。また、30万円以下の家計収入の場合に、年金が0-5万円の人が多い。これからの生活設計を考える上で年金を計画的に入れていくことの大切さを示していると見ることができる。(図-10.11)



収入の種類 (図-9)



(図-10)



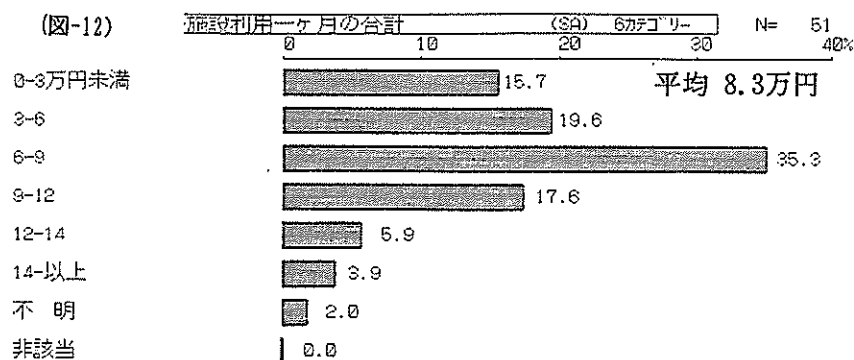
(図-11)



(4)一ヵ月の入所費用の合計は、6-9万円が最も多く35.3%で、平均8.3万円であつた。

その他ショートステイ利用者の一ヵ月平均利用日数は16.7日で、費用の平均は4.5万円、デイケア利用者の一ヵ月平均利用日数は12.6日で、費用の平均は1.6万円であつた。デイケアはかなり安い料金で利用できることがわかる。(表-4) (図-12)

(図-12)





## 一カ月のショートステイ費用

該当人数		6人
一カ月の費用	平均費用 万円	4.5万円
1.5万円以下		1人
1.6以上4万円未満		0人
4万円以上5万円未満		3人
5万円以上7万円未満		1人
7万円以上8万円未満		1人

(表-4)

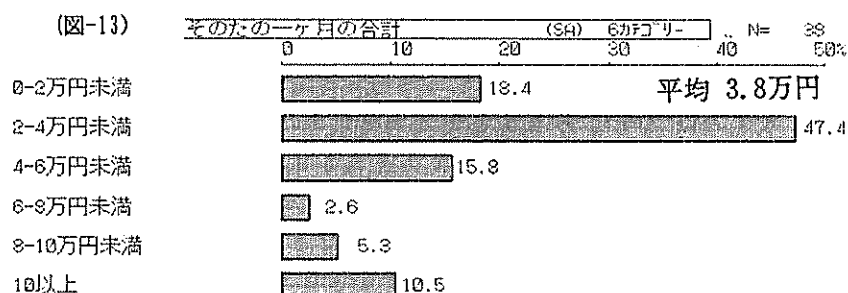
## 一カ月のデイケア費用

該当人数		9人
一カ月の費用	平均費用 万円	1.6万円
1.2万円以下		6人
1.2以上1.9万円未満		0人
2万円以上2.3万円未満		1人
2.3万円以上3万円以下		2人

(5)施設費用以外にかかる被介護者の費用は2-4万円が最も多く47.4%で、平均3.8万円であった。ショートステイ、デイケア利用の回答者についてみると、おむつを含む被服費が平均2.3万円、食物費が平均2.3万円であった。(表-5)(図-13)

(6)入所者およびショートステイ、デイケア利用の全施設利用者の一カ月の合計費用は、8-12万円が最も多くて33.3%である。平均7.2万円である。(図-14)

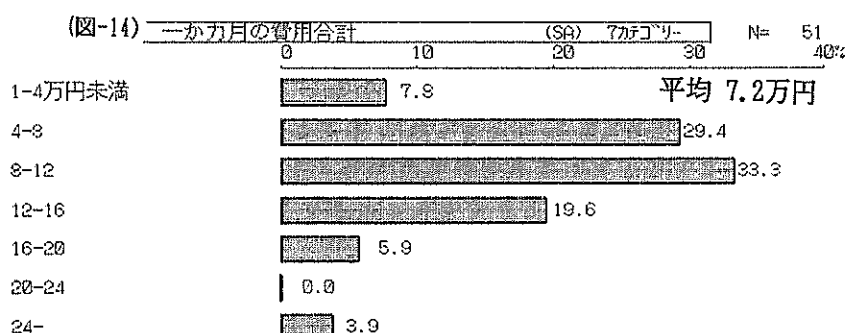
(図-13)

施設費用以外の  
一カ月の被服費は(表-5)

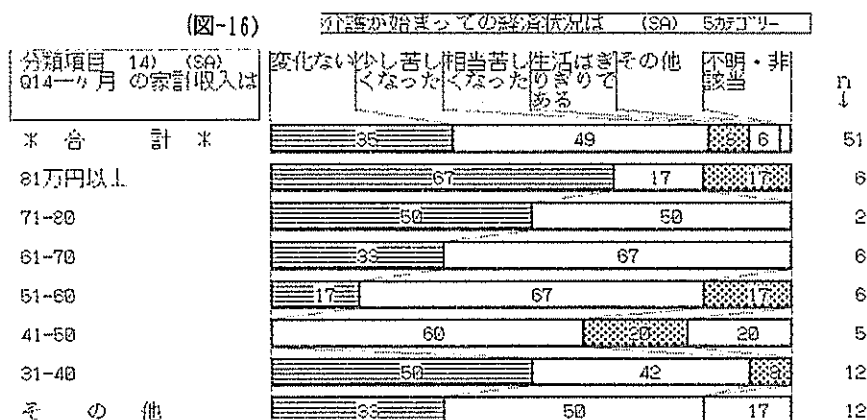
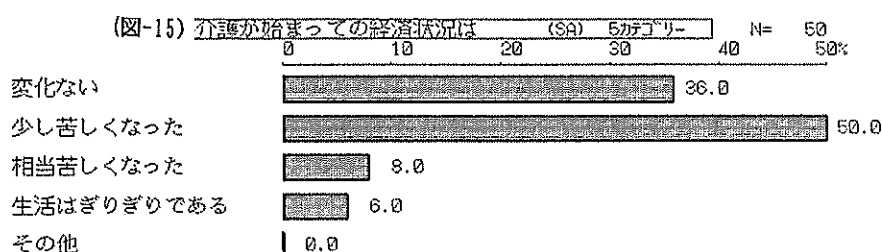
解答人数		23人
一カ月の費用	平均費用 万円	2.3万
1.5万未満		10人
1.5万以上2.5万未満		4人
2.5万以上3.5万未満		4人
3.5万以上4.5万未満		2人
4.5万以上5.5万未満		2人
5.5万以上6万円未満		1人

施設費用以外の  
一カ月の食物費は

解答人数		19人
一カ月の費用	平均費用 万円	2.3万
1.5万未満		7人
1.5万以上2.5万未満		4人
2.5万以上3.5万未満		4人
3.5万以上4.5万未満		3人
4.5万以上5.0万未満		1人



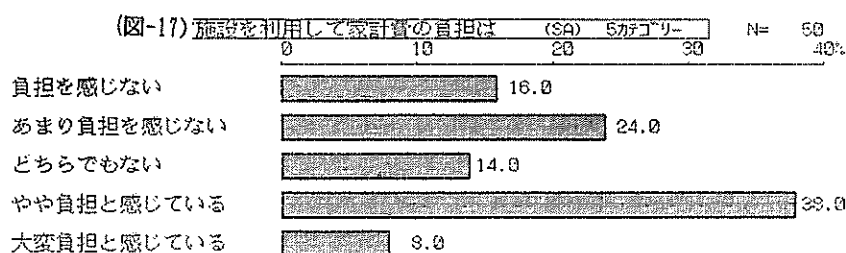
(7)介護が始まっての経済状況は、少し苦しくなったと答えている人が50.0%もいる。これを一か月の家計収入との関連で見ると81万円の収入があると経済状況は変化ないといえる。更に一か月の家計収入を家族人数で割った一人当たり一か月の収入からみると、一人当たりの収入が13万円以下の場合、生活はぎりぎりであると答えている人がいる。一人当たり28.1万円以上になると、変化ないとある。いずれにしても、収入の余裕があると、介護が始まっても変化ない状況が続けられるが、全体の65%位の人たちが、すこし苦しくなった、相当苦しくなった、生活はぎりぎりであるのいずれかに答えていることは、施設介護における経済的負担は大きいといえるのではないだろうか(図-15.16) (表-6)



— カ月 — 人 当 り 家 計 収 入 と  
介護がはじまっての家庭の経済状況は  
(表-6) (有効解答47人)

介護が始まっての 家庭の経済状況 の変化はどうか  一人当り 一カ月の 家計収入は どのくらい ですか	① 変 化 な い	② 少 し 苦 し く な っ た	③ 相 当 苦 し く な っ た	④ 生 活 は ぎ り ぎ り で あ る
4万円未満	1	2		1
4 ～ 7万円	1	3	1	1
7.1 ～ 10	3	7		
10.1 ～ 13	4	3		1
13.1 ～ 16	1	4	1	
16.1 ～ 19		1		
19.1 ～ 22	2	2	1	
22.1 ～ 25	1			
25.1 ～ 28	1	2	1	
28.1 以上	2			

(8)施設を利用しての家計費の負担については、やや負担と感じている人が38.0%で最も多い。これを一人当たり一カ月の家計収入からみると、一人当たり16万円以下に、やや負担を感じている、大変負担を感じていると答えている人が集中している。施設利用の費用は約半数の人には負担となつている。被介護者家計収入のバラツキが大きく、一人当たり22.1万円以上の収入がある人はあまり負担を感じない、負担を感じないと答えている。(図-17)(表-7)



一ヵ月一人当り家計収入と  
施設を利用する家計の負担は  
(表-7) (有効解答47人)

施設を利用して 家計費の負担は いかがですか (単位人数)	① 負担を感じない	② あまり負担を感じない	③ どちらでもない	④ やや負担と感じている	⑤ 大変負担と感じている
一人当り 一ヵ月の 家計収入は どのくらい ですか					
4万円未満			1	3	
4.1～7万円		1	1	4	1
7.1～10万円	1	6	1	1	1
10.1～13万円	2	1	2	3	
13.1～16万円		1	1	4	
16.1～19万円			1		
19.1～22万円	1	2		1	1
22.1～25万円	1				
25.1～28万円		3	1		
28.1以上	2				

#### 6. 施設利用する前と施設利用した後の介護者の状況

(1)介護者の疲労度は、被介護者が入所される前はいつもかなり疲れが残っていた、いつも大変疲れていてだるかった、を合わせると半数以上であつたのが、入所後はこれらがほとんどなくなっているのは驚異である。在宅のみで介護をしていると、かなり疲労しているといえよう。(図-18)

(2)介護者の身体の状態は、被介護者が入所される前は不健康とやや不健康を合わせて60%であつたのが、これが30%に減っている。介護者の健康面を考えても施設を上手に利用することは、健康維持の上からも必要なこととなるのではないだろうか。(図-19)

(3)介護者の精神的困難度は、被介護者が入所される前は大変困難が約半数の49%であつたが、被介護者が入所後はこれがなくなり、大変楽であるが36.7%になっている。在宅で被介護者を見ていると、精神的に休まる暇もなく、ストレスもたまり、大変困難な状態が、被介護者を入所させることにより、安心し、精神的にほっとするのではないだろうか。

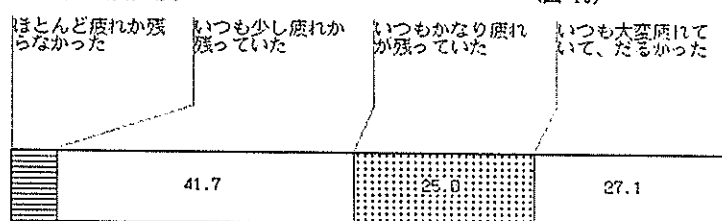
(図-20)

(4)介護者の介護についての労働面、身体面の困難度は、被介護者が入所される前は大変な仕事であつた、やや苦勞であつた人を合わせると98%である。介護の仕事がいかに大変な労働であるかを語っているように思われる。被介護者が入所後はこの数字が14%に減っている。施設利用することは、この面でも介護者を助けてくれているように思われる。

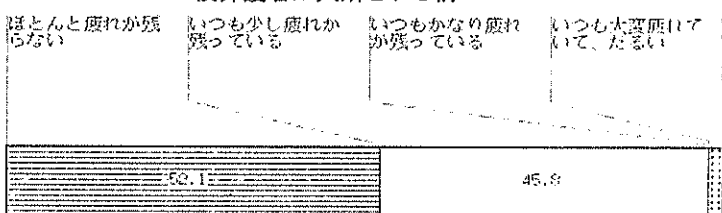
(図-21)

介護者の疲労度は

(図-18)



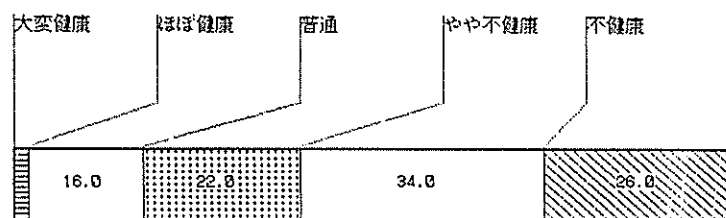
被介護者が入所される前



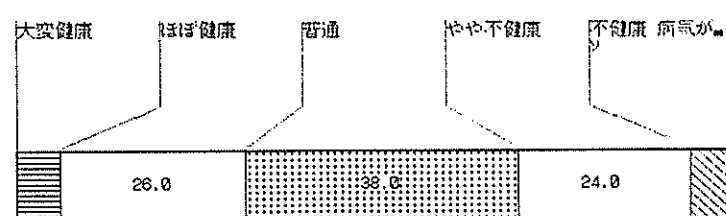
被介護者が入所された後

介護者の身体の健康度は

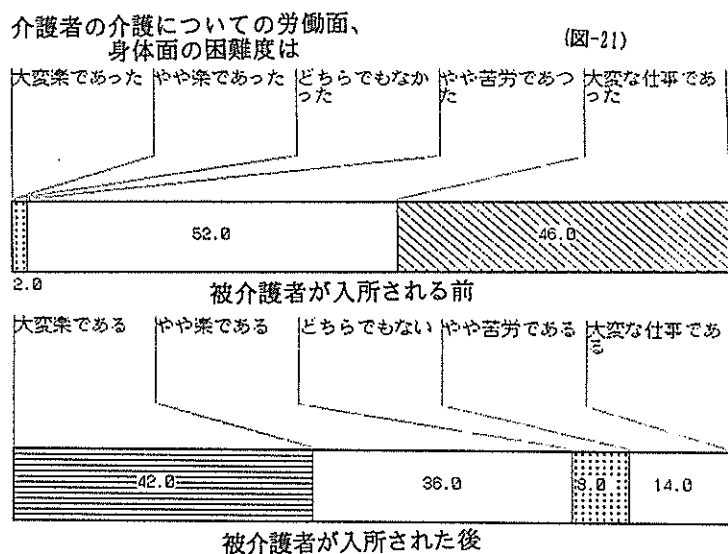
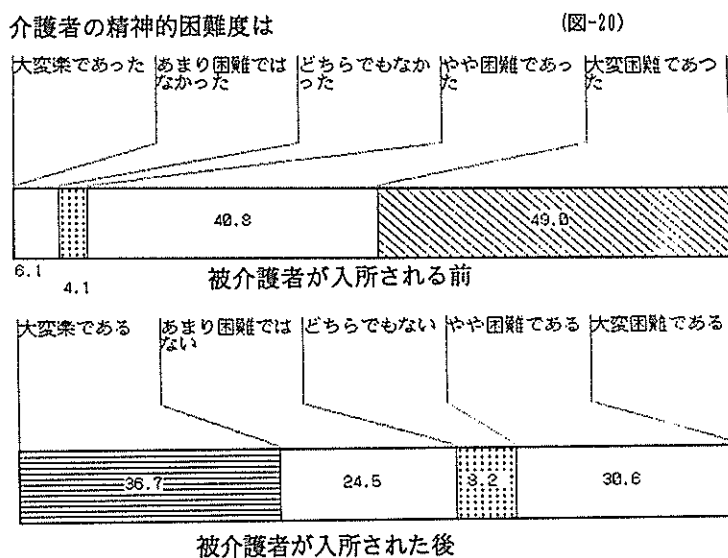
(図-19)



被介護者が入所される前



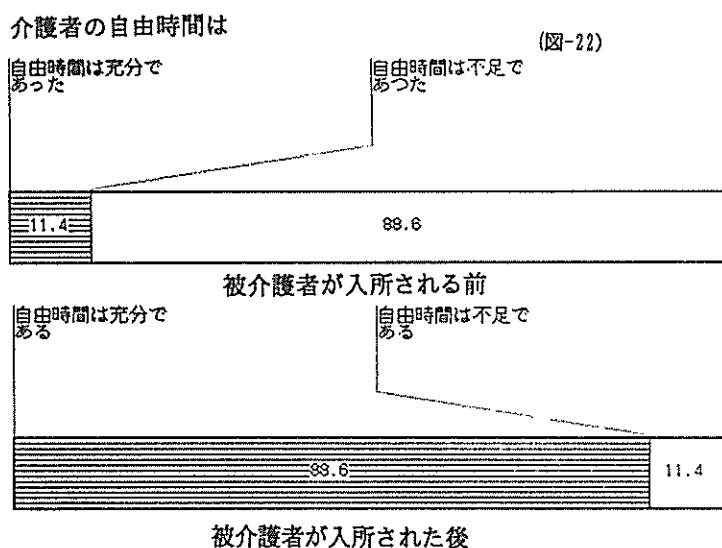
被介護者が入所された後



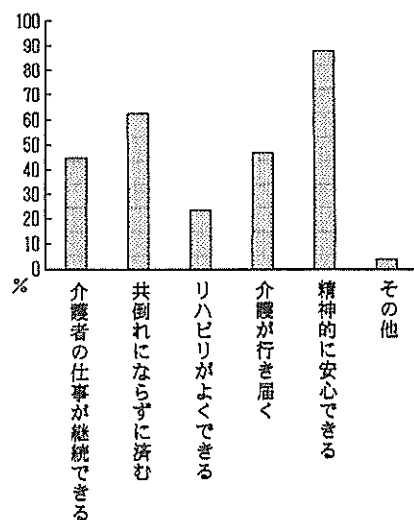
(5)介護者の自由時間については、被介護者が入所される前は自由時間は不足であつた人が、88.6%であり、在宅介護の場合、介護者の自由時間はほとんどない状態ではないだろうか。入所後は逆に十分な人が88.6%になり、時間のゆとりを感じる。これは介護者一人の問題ではなく、家族全体に影響する問題と考えられる。(図-22)

(6)施設利用してよかった点は、精神的に安心できるが88.2%で最も多く、次いで家族が共倒れにならずに済むが62.7%、介護が行き届く47.1%、介護者の仕事が継続できるが45.1%、リハビリがよくできる23.5%で、いずれも高い数字であるのは、ほとんどの人が、よかった点を

三つ以上あげていることである。この数字をみても、施設を利用していくことは介護者の健康面や精神面だけではなく、仕事も継続することができ、被介護者にとつてもリハビリや介護も行き届き、そしてなにより家族が共倒れにならずに済むということがいえる。(図-23)



施設利用してよかった点は (図-23)



(7)介護者として希望することで、最も多かったのは「費用をもう少し安く」と5人があげている。

次に「利用料の国の補助の増額を」が4人である。例えば、「市がかかっている施設だけでなく、すべての老健施設に入所したり、デイサービス利用者に補助金を支給したらどうかと思います。」(69歳女性)

また「施設の増設を」希望している人も多く、「高齢社会の現在施設を多く作って貰いたい。」(59歳女性)「公共施設をもっと多くつくってほしい。公共の施設利用の優先順位が公平ではない。」という意見もあった。

また「もっと長期入所することができるとありがたい」とあり、例えば「家計が苦しくなっても、介護する者のストレス他を考えれば施設の存在は大変有り難いです。もっと長期間入所でできればと痛切に思います。」(58歳女性)

その他感想を若干あげると、「姑が5年間寝たきりになっています。そこへ舅が痴呆になり、家族全員どのようにしたらよいか、精神的にもまいっていました。施設を利用させて頂いて感謝しています。」(49歳女性)

「デイケアを月8回お世話になつていますが、同じ状態の皆さんと一緒に楽しんできるのが張り合いです。介護福祉の方々の親切がいちばん嬉しく、デイケアを楽しみにしています。」(54歳女性)

「施設利用すると、家計が少し大変でも、身体的、精神的に余裕が出て、家庭の中が穏やかになったと思います。家族生活という面からは全部背負いこんでしまうのではなく、施設を利用しながら家族全体がうまく機能するような方法を介護者が考えてゆかねばならないと思います。」(45歳女性)

「入所していると本人の年金ではやや不足ですが、それよりも介護者のストレス（介護する者が高齢化しているので、精神的にも肉体的にも辛い）がないだけありがたく思っています。」(61歳女性)

上記は自由記入による要望、意見であるが、全体に費用の負担は大きいことが感じられる。しかし施設利用は介護者を助け、なかには被介護者も感謝していることが理解できる。

## 7. まとめ

### (1)家族の形態的、機能的変化に対応した介護の条件整備を

本調査における被介護者の平均年齢は82.7歳であり、まさに後期高齢者である。家族人数は3人以下の世帯が50%であり、一昨年の在宅介護調査時の平均家族人数4.4に比べ、今回は3.9人であり、あきらかに一世帯当たりの人員の減少は施設の利用を必要としている。介護者の状況をみると、前回調査の平均年齢54.0歳であつたが、今回の調査の平均年齢は57.5歳であ



る。これは72歳以上の介護者が24%もあり、それは多くは配偶者である。したがってこの場合には男性も介護者となるため、前回より男性の介護者が増えている。

このように家族形態が変化している現状をふまえ、少人数家族で、高齢の介護者が男性も女性も介護可能な条件整備、施設の量と質の充実が望まれる。

## (2)施設利用と家計

全体の65%の人が、介護が始まっての家庭の経済状況は、少し苦しくなった、相当苦しくなった、生活はぎりぎりである、のいずれかに答えている。そして施設利用しての家計の負担は、38%の人がやや負担と感じている。特に一ヵ月一人当たり収入が16万円以下の人に、負担を感じている、やや負担を感じていると答えている人が集中している。

一ヵ月の入所費用平均は8.3万円、ショートステイ、デイケア利用も含めての全施設利用者の一ヵ月の平均費用は7.2万円であつた。今回調査の一ヵ月一人当たり収入は13万円以下が58%である実態から、特に入所の場合約10万円の支出、全施設利用者の平均7.2万円の支出は被介護家庭においてその経済的負担は大きい。

公共の施設のみでなく、すべての老人施設に対して国の補助の増額がまず急がれるのではないだろうか。

## (3)施設利用をしての介護者の変化

介護者の疲労度、身体健康状態、精神的困難度、労働面および身体面の困難度、自由時間について、被介護者が入所される前と後についての調査を行なった。どの項目も予想以上に施設介護を利用することにより良い結果が出ている。在宅で被介護者をみることは精神的に休まる暇もなく、ストレスもたまり、健康面もやや不健康な状態で、自由時間もほとんどなく、大変な苦勞な仕事であることを語っている。しかし施設利用することにより、経済的には負担であるが、介護者も精神的にも身体的にも楽になり、共倒れならず済み、それが家族全体によい影響をもたらしていることが伺えた。

介護者の仕事については、入所後パート労働が増えたがその他、あまり大きな変化がなかったのは、介護者に高齢者が多いことだろうか。しかし働ける年齢においては、被介護者が入所前も後も常勤が多いのは、介護が始まって仕事続けるために施設利用している人が多いことは、施設利用の上手な利用方法として、これから働き続ける女性が多くなる現在において大事な要素である。

介護が生じたとき、仕事をやめて老親の介護をするなどの矛盾が今問われ始めてきているとき、仕事も継続でき、精神的にも、身体的にもより楽に介護ができ、そしてまた高齢の介護者も男性も、少人数の家族も、介護が無理なくすすめられる方法は、施設介護を上手に取り入れていくことが良いといえる。そのためには気軽に施設利用ができなければならない。それには施設の増設と長期入所の実現も望みたい。高齢者にも介護者にも明るい将来を築いて行かれるよう、福祉行政への期待とともに、さらに研究を深めていきたい。しかし、一

面被介護者の要望も大切に考えたいところである。施設利用に当たっては家族のふれあいへの思いやり、外泊、外出などによる家族との交流、面会の密度など、これからの課題として十分に考えて行きたいところであろう。

#### 参考文献

- 1) 三浦文夫編(1996) 図説高齢者白書 1996
- 2) 岡崎陽一、山口喜一著 高齢化社会の基礎知識